



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第53号
2010. 6月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年度の地すべりと雪崩の発生状況
 ・トピックス
 ・転入者あいさつ
 ・H22年度の研究課題
 ・平成22年度メンバー

今年度の地すべりと雪崩の発生状況



H22年4月18日に、新潟県妙高市上平丸地区で幅150m、長さ350mにわたる地すべりが発生

1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

今冬は積雪が多く、当センターでの最大積雪深は約2mに達しました。

図1は、新潟県と長野県における過去10年間の1～4月の地すべり発生件数を示したものです。H22年は新潟県22件、長野県6件となっており、過去10年間では新潟県がH13、15年（28件）に次ぐ4番目、長野県もH14、18年（8件）に次ぐ4番目に多い年でした。また、発生時期は新潟県では例年4月が一番多いので

すが、今年も4月が一番多くなっています。一方、長野県では例年3月または4月が一番多いのですが、今年も4月が一番多くなっています。

2. 今年度の雪崩の発生状況

今冬は、気温が低く雪が降り続いて大雪となった時期や、比較的気温が高い時期があり、寒暖の差が激しい冬となりました。表1に示すように、全国的には人的被害のあった雪崩は、それほど多くありませんでした。新潟県内では、雪崩による交通障害が平成18年豪雪時より多かった地域や、海岸に近い地域の方が山沿いより大雪になった時期があり、雪崩の発生に注意が必要な年でした。

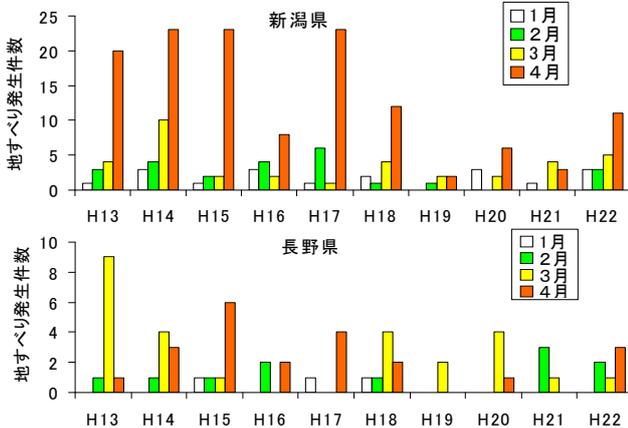


図1 1～4月の地すべり発生件数の推移

(新潟県、長野県砂防課調べ)

表1 2009-10年冬期の雪崩災害・事故発生状況

No.	発生日	発生場所	対象	被災状況
1	1月16日	北海道留寿都村 尻別岳	山スキー	1名死亡
2	2月6日	長野県山ノ内町 志賀高原	集落	2名軽傷
3	2月23日	長野県松本市 乗鞍岳	山スキー	1名死亡
4	3月12日	山形県上山市 熊野岳	山スキー	1名死亡
5	5月1日	富山県立山町 御山谷	山スキー	1名死亡 1名重傷

(新聞記事等から人的被害のあったものを整理)

トピックス

■JICA 研修生来訪

4月26日、海外からの研修生7名が、JICA 火山学総合土砂災害対策研修の一環として当センターを訪れました。今回の研修生は、中国、インドネシア、マレーシア、パキスタン、フィリピン、トルコ、ベネズエラの7カ国の主に行政機関の人達です。



研修では、丸山総括主任研究員が地すべり防止工事に関する講義を行い、その後研修生に道路拡幅工事に伴い地すべりが発生したという想定で、地すべり防止工事計画を立てて頂き、各研修生の計画に対して全体で議論するという形式で演習をして頂きました。

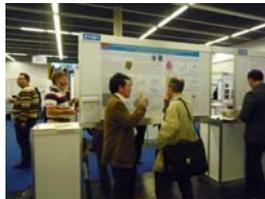
■融雪地すべり災害に対する技術支援

4月27日、新潟県妙高市上平丸で4月18日に発生した八幡地すべりの対策会議が、市及び県により開催されました。当センターからは、野呂所長、丸山、中村が出席し、今後の地すべり監視等に対する技術支援を行いました。



■国際会議

Interpraevent2010 が4月26～30日に台湾の台北市で、EGU2010 総会が5月2～7日にオーストリアのウィーン市でそれぞれ開催されました。当センターから、ハスパートル専門研究員が地震により発生する地すべりの特徴について、Interpraevent2010 では中越地震と中越沖地震、EGU2010 では岩手・宮城内陸地震を例にそれぞれ発表しました。



■学会研究発表会

5月15日に新潟県小千谷市で日本雪氷学会北信越支部研究発表会、5月13～28日に千葉県幕張メッセで日本地球惑星科学連合2010年大会、5月21日に新潟市で地すべり学会新潟支部シンポジウム、5月

表1 研究発表会一覧表

学会名	タイトル	発表者
雪氷学会北信越支部	2月6日長野県山ノ内町志賀高原で発生した雪崩	伊藤陽一
地球惑星科学連合2010年大会	震源断層と地震による地すべり分布の特徴－善光寺地震の例－	ハスパートル
	地すべり地縁辺部の開放状況と地震により発生した地すべりの関連性－中越地震の事例－	中村 明
地すべり学会新潟支部	近年の地すべり災害の傾向と課題	丸山清輝
砂防学会	中越地震と岩手・宮城内陸地震による地すべりの分布特徴	ハスパートル
	地すべり地における地下水排除施設集水管の閉塞の原因と対策に関する調査	丸山清輝
	岩手・宮城内陸地震による地すべりと地すべり地縁辺部状況の関係	中村 明
	地震計による雪崩と地震動の識別検知手法の検討	伊藤 陽一
	レーザー計測データを用いた雪崩の発生要因解析	富樫香流

26～28日に新潟市で砂防学会研究発表会がそれぞれ開催されました。当センターからは、表1に示す研究発表を行いました。

H22 年度の研究課題

H22年度の当センターにおける研究課題を紹介します。

地すべり部門

- ①地震時における再滑動地すべり地の危険度評価に関する研究(重点プロジェクト研究H20～22)
- ②地すべり地における地下水排除施設の適正な維持管理に関する研究 (H20～22)
- ③地すべり対策斜面の耐震性と地すべり斜面の地震時安定性評価に関する研究 (H21～23)

雪崩部門

- ①雪崩対策工の合理的設計手法に関する研究 (戦略研究H21～23)
- ②冬期の降雨にともなう雪崩災害の危険度評価に関する研究 (戦略研究H22～26)

転入者あいさつ

■雪崩・地すべり研究センター所長 野呂智之

4月1日付で着任をしました。このセンターは土木研究所の中でも「地域密着型」の研究機関という特徴を持っています。研究成果を論文としてまとめるだけでなく、雪崩や地すべり災害に向き合っている地域から頼りにされる存在になることをこれからも目指して参ります。



地域の皆様からのご理解とご協力をお願いいたします。

平成22年度メンバー

所長	野呂智之
主事	阿部 悦
総括主任研究員	丸山清輝
研究員	伊藤陽一
研究員	ハスパートル
交流研究員	中村 明
非常勤職員	和田美乃
非常勤職員	富里加代子



ニュートンのりんごの木

ニュートンのリンゴの木がたくさんの花を咲かせました。写真は5月10日現在のものです。花の大きさは約3.5cmです。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。